

令和 6 年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力 (1)日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 (3)言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	・全国学力調査の結果によると、全国・都の平均は全ての項目において上回っているが、「書く」、「話す・聞く」の領域において課題がみられる。 ・「書くこと」においては、決められた字数でまとめて書くことに課題がみられる。 ・語彙力に課題がみられる。それが、「書くこと」「話すこと」「聞くこと」「読むこと」の全ての領域につながっていると考えられる。	・短い文を書き、主語・述語の関係を意識させ、正しい文が書けるようにする。 ・日記などの文を書く機会を継続的にもつように心掛け、文を書くことに慣れさせる。 ・漢字の成り立ちや同音漢字などを取り入れるなど、漢字に興味をもって学習に取り組めるように活動を工夫する。漢字を使ったクイズやパズル、ゲームなども取り入れる。 ・互いの書いたものを読み合い、推敲する経験をもつ。 ・相手意識・目的意識をはっきりさせて書くことで、充実感を味わわせる。 ・話型の提示する。 ・詩の音読や暗唱などを通して、様々な言葉の響きやリズムに触れ、言葉の豊かさを感じるようにする。 ・ペア・グループなど、学習形態を工夫し、「話すこと」「聞くこと」の機会を増やしていく。 ・読書機会を増やすためにも、読書環境を整える。(学級文庫の充実・学校図書館、地域図書館との連携・活用) ・読み聞かせの継続。(保護者ボランティアによる読み聞かせ・教師による読み聞かせ) ・学校図書館を活用し、本を使って調べる機会を増やす。 ・様々な文章に触れ、親しむ機会を増やす。 ・動作化や劇化を積極的に取り入れ、言葉のもつ意味について理解する。 ・音読劇、朗読発表会、俳句鑑賞会など、学習の楽しさを味わえる活動を工夫する。 ・他教科を関連付けて課題を設定する。
社会	育成を目指す資質・能力 社会的な見方・考え方を働かせ、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要	学習評価等に基づく課題 ・技能「資料読み取り」に課題が見られる。資料から読み取るべき情報が何かを理解していないと考えられる。 ・調べたこと(社会的事象)を、	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 ・教科書の学び方コーナーにある、グラフの読み取り方などを活用し、資料の正しい見方や読み取り方を知識として定着させる。 ・発問を工夫し、資料の何に着目し、どのような情報を抽出すればよいかを明確にする。

	な公民としての資質・能力 (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。 (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。	比較・分類したり統合したり関連付けたりして、表現することに課題がみられる。	・複数の資料を提示し、そこから必要な情報を読み取り、まとめるような機会をつくる。 ・児童が伝え合う学習では、具体的な例を児童に示し、ゴールへの思考の流れがスムーズに行えるようにする。 ・事実（分かったこと）と意見を区別して考えるように伝え、板書では、それぞれ色を変えて書く。 ・YES/NOで答えるようなクローズな発問ではなく、オープンエンドな発問で、一人ひとりの考えを引き出す。
--	--	--	---

算数	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	数学的な見方・考え方を基に算数的活動を通して、数学的に考える資質・	1年生・・・文章問題での題意を捉えて立式することに誤りが多い。	・児童の学習の実態に応じ、具体物やヒントカードなどで課題解決の見通しをもたせ、事象をイメージしやすくすることで課題解決の

	能力 (1)数量や図形について基礎・基本の概念、性質を理解し、日常の自称を数理的に処理する技能を身に付ける。 (2)日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち、筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質を見出し、統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・適格に表現したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。(思考力・判断力・表現力等の育成) (3)算数的活動の楽しさや算数のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題を解決しようとする態度、学習したことを生活や学習に活用しようとする。	2年生・・・自分の考えに理由付けて説明し合うことが苦手である。 3年生・・・考えを式、図、言葉に表現することが弱点である。 4年生・・・自分の考え方に根拠をもち、自信をもち、説明することが苦手である。 5年生・・・課題解決に向けての考え方、解き方を図や式と関連付けて説明することが苦手である。 6年生・・・答えを求めることだけで理由や解決のプロセスを説明するのが苦手である。学力差が目立つ。既習事項との関連で系統的な学習課題を設定することがもう一歩である。	支援をする。 ・課題解決の過程では、解決のための見通しを共有する。自分の考えを友達の考えと比較検討して理由付けて説明できるようにする。考えは、式と図、表などに関連付け、ノートやタブレット端末で情報収集できるようにする。 ・自力解決では、机間指導を行い、児童の思考過程を見取る。児童の考え方のよさを具体的に褒めたり、助言をしたりして支援をする。 ・授業の終わりの振り返りでは、めあてに合う振り返り、学んだこと、分かったこと、友達の考えの良いところに視点がいくように提示する。 ・日常生活を想起して具体的な場面で活用できるような具体例を提示する。 ・体験的な学習の充実を図り、量感を捉え日常生活から算数に興味をもつ姿勢を育てる。 ・課題設定では、系統的に既習事項を確認しながら算数的課題を設定出来るように、前学年での学習内容を考慮して授業構成を考える。
--	---	---	--

理科	育成を目指す資質・能力 自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力 (1)自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、問題解決の力を養い、自然を愛する心情や主体的に問題解決をしようとする態度を養	学習評価等に基づく課題 ・実験を進めるにあたり、正しい器具や薬品の扱い方が身に付いていない。 ・課題を解決するための実験、という意識が欠けている。また、実験・観察への意欲はあるが、視点や目的を明確にもてていない。	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 ・繰り返し器具に触れさせ、使い方を身に付けていく。また、動画等を活用し、視覚的に理解できるようにするという改善を行っていく。 ・器具等の使い方を正しく理解させたいので、自ら実験方法、進め方を見い出せるよう指導する。 ・児童が自ら課題を見出せるような導入・展開を行い、見通しをもって観察・実験を進める授業を行えるよう、教材研究を行う。「比較の方法(比較対象・対照)」や「条件制御」の視点をもてるようにする。 ・結果の共有、考察を考えて話し合う機会を授業中に確保する。

	う。		
--	----	--	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力 (1)活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 (2)身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようになる。 (3)身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。	・これまで生活科に関する活動や体験の経験が乏しく、自分たちで活動の計画を立てることが難しい。 ・港区という地域柄から、自然があまりないため、身の回りの自然や地域にあまり関心をもてていない。	・双方向性のある活動や多様な体験（見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど）をさせる機会を多くとり、経験値を多くしてから自分たちで計画を立てられるよう指導する。 ・校外学習を行ったり、地域について詳しく知るゲストティーチャーを招いたりして、地域について学ぶことや自然を大切にすることができるようになる。 ・試行錯誤や繰り返す活動を設定する。 ・伝え合い、交流する場を多く設定する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力 (1)曲想と音楽の構造などとの関わりについての理解、表したい音楽表現をするために必要な技能（知識・及び技能）を身に付けるようにする	・コロナ禍の数年間で、技能の習得に関わる実技を伴う授業が不足したことで、各学年で習得しておくべき技能の定着がやや弱い。 ・音楽から様々な情報を感じ取ることができるが、それを演奏に生かして表現し、他者に伝えるところまで深められていない。	・既習事項を活用しながら6年間の学びがつながるように、見通しをもった指導計画を作成する。 ・個人、ペア、グループ、全体の様々な形態で、自他のよさを見付けながら学習を進める活動の時間を多く確保する。 ・本物の楽器を見たり、聴いたり、演奏したりする機会を取り入れる。 ・既習事項を用いた対話を促し、知識の定着を図る。 ・共通事項を軸において、歌唱、器楽、鑑賞、

	る。 (2) 音楽表現を工夫すること、音楽を味わって聴くことができるように、思考力・判断力・表現力等の育成をする。 (3) 音楽を愛好する心情と音楽に対する感性、音楽に親しむ態度、豊かな情操を養う。(学びに向かう力、人間性等の涵養)		音楽づくりを関連させながら、曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解を深め、学んだことを表現に生かせるように指導する。 ・主体的に表現や鑑賞の実体験を積むことで音楽活動の楽しさを経験し、友達と一緒に演奏する喜びや多様な表現に触れる体験を積み重ねることで、一層豊かな情操を培うようにする。
--	---	--	---

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力 (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすること(知識及び技能) (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をすること(思考力、判断力、表現力等) (3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)	・造形的な見方・考え方を児童が十分に働かせた学習展開が必要である。 ・日常生活と関連させて造形的な良さや美しさ、表したいことを想起することに課題がある。	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 ・平面、立体工作、造形遊び、鑑賞をバランスよく取り入れ、6年間の学習の見通しをもった指導計画を作成する。 ・タブレットなどのICT機器を取り入れ、自分の活動を振り返るなど、鑑賞の方法を工夫する。 ・共同してつくりだす活動を取り入れ、様々な発想や構想、アイデア、表し方などがあることに互いに気づき、表現や鑑賞を高め合えるようにする。 ・児童が個性を生かして活動することができるように、表現方法や材料、用具などを選ぶことができるようにする。 ・すすんで楽しむ意識をもたせながら資質・能力を育成するために、造形遊びを積極的に行う。 ・道具の扱い方については、安全面や使いやすさを児童に考えさせながら指導する。特に安全面においてはなぜそのように使うのかも細かく指導する。 ・様々な素材を扱う経験を低学年から積み重ね、表したいことに合わせて材料を選択できるようにする。

家	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
---	-------------	-------------	----------------------

	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力 (1)家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。(知識及び技能) (2)日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力等) (3)家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々とのかかわりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)	・日常生活における経験の差が大きいため、実習などで、自分から取り組むことのできる子とできない子との技能の差が見られる。 ・日常生活と関連付けながらの学習ができていない。	・実習の機会を増やす。 ・実習などのグループ活動においても、教材や教具を工夫し、一人一人の活動時間や場を保証する。 ・積極的に地域コーディネーターを活用し、個別の支援ができるようにする。 ・調理や製作等の手順の根拠を考えたり、調理道具の安全な使い方や衛生について考えたりするなど、実践的・体験的な活動を充実させる。 ・日常生活の中に家庭科で学習する内容を見付け、それを教材化する。
--	---	---	--

	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習課程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力 (1)その特性に応じた各種の運動の行い方及び	・体力テストからみられる課題は、投力、筋力、持久力が低い傾向があることや体力の個人差が大きい。 ・学習評価からみられる課題は、ボール運動、器械運動、水泳の技能に自信のない児童が多いことや課題解決に向けて思考する場面で積極的になれない児童が多いこと、勝敗や順位にこだわりすぎてしまう	・体力テストでみられた課題を改善するため、事前に個々の目標を設定することや動きを十分に身に付けたり用具に慣れたりした上で測定ができるようスモールステップの指導をすること、その指導時期を早めること、授業の運動量を十分に確保すること、ゲストティーチャーを活用すること、休み時間は外遊びやボルダリング、紙鉄砲やめんこ遊びを推奨し運動習慣をつけることに取り組む。 ・自信がもてない児童も前向きに学習できるようにするため、基礎感覚が身につく補助運

身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。 (2)運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3)運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。	ことがある。	動を継続的に取り入れたり技能に合わせた練習の場を設定したりする。 ・課題解決に向けて思考したことを表現しやすいよう、ICTを活用したりチームで具体的な解決法を話し合う時間を確保したり副読本や学習資料を根拠として示して伝え合ったりするなど学習方法を工夫する。 ・勝敗や順位だけではなく、何を学ぶ学習であるかを明確にして授業を展開する。そのために、身に付ける動きを明確に提示するなど、その時間のめあてをもたせたり、良い点を伝え合うことや励まし合うことなど、児童同士の関わり方を意識させたりする。導入で学習の目的を明確に示し、まとめて目的に沿った振り返りをするなど、1時間の学習過程を大切に指導する。
---	---------------	---

国際	育成を目指す資質・能力 外国語活動（第1～4学年） 外国語によるコミュニケーションにおける見方、考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質、能力の育成 (1)外国語を通して、言語や文化について、体験的に理解を深め、外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。 (2)身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。 (3)外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 外国語科（第5、6学年） 外国語によるコミュニケーションにおける見方、考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質、能力 (1)外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気付き、これら	学習評価等に基づく課題 ・意欲的に英語を使った学習活動に参加する児童が多い一方で、恥ずかしさや日常的に英語に触れていないことによる苦手意識などから、活動に対して消極的な児童が見られる。 ・英語を使ったゲームなどを行う際に、勝ち負けや数などに執着してしまい「外国語を使ってコミュニケーションをとる」という目的意識をもてていないことがある。 ・話すことの領域の個人差が大きい。（高学年）	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 ・4技能「聞く・話す・書く・読む」に偏りがなく、毎時間の授業構成の工夫を図る。 ・音声を中心とした学習活動を行っていく。低学年ではアルファベット、簡単な固有名詞の発音をネイティブティーチャー（NT）の音声、視聴覚教材を活用しながら「聞く」活動、音声に慣れる活動（歌やリズム、チャンツ）を重点的に指導する。高学年では音声から文字化（簡単な単語の書き取り、簡単な英語の文章の作文）へ進め、中学校英語に向けての橋渡しとなる活動を行う。 ・各単元、毎時間の学習のゴールやめあてを児童に確実に伝えることで、児童が見通しをもって学習にと取り組めるようにする。また、NTの話す言葉に興味をもてるように、児童にとって身近な話題でのやりとりをスモールトークなどに取り入れる。また、児童が外国の文化に興味をもてるよう教材を工夫する。 ・児童が学習した、英語表現を使う機会を多く設定し、「話す」経験を豊かにする。 ・教師がすすんで声を出して、英語を使う。その姿を児童に見せる。また、活動に対して消極的な児童には声掛けを適切に行い、他の児童と外国語でのコミュニケーションを図ることができるようにする。 ・ゲームや歌をすすんで活動に取り入れ、遊びの中で児童が外国語に親しむことができるようにする。 ・ゲームのルールを説明する際は、発達段階に応じて、学級担任がNTの英語での指示を、日本語に訳して説明したり、しっかり理解しているか確認したりして、児童がルールや目的を「分からない」状態で活動を行うことができるだけないようにする。 ・ゲームの活動を行う際には、「外国語でコミュニケーションをとる。」「何を訪ねて、何を答えるのか。」という目的意識をもたせる。 ・高学年では、話す機会を増やすため、また、
----	---	--	---

	の知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、4技能による実際のコミュニケーションにおいて、活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測して読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基本的な力を養う。 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	英語で話すことを意識づけるため、単元末にスピーチやNTとの一対一での英語での会話などの活動を取り入れる。また、評価にも生かす。 ・ゲストティーチャーとして様々な国の人を招き、多様な文化に触れる機会を設ける。
--	--	---

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考える学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。	・児童が教材の時代背景や登場人物の言動の背景を理解できず、めあてや価値項目に対して、学習内容がずれてしまうことがある。 ・自分事として、価値項目の内容について考えている児童が少ない。 ・自分の考えや意見をもてない、他者に伝えられない児童がいる。 ・学習した道徳的価値を、児童一人一人の日常生活に生かせていない。	・導入での発問や教材提示の仕方を工夫する。(紙芝居、ペープサート、ICT機器の活用など) ・教科書のページの順番に教材を活用するのではなく、児童の実態や実際の出来事、行事などを踏まえて適切な教材を選び、発問を精選する。 ・教師が終末での説話などですすんで自分自身の経験や体験談を話し、児童が自分のことを振り返るためのモデルを示す。 ・様々な形態での話し合いや役割演技などを取り入れること、児童が自分の考えや意見をもち、発信できるようにする。 ・展開後段で教材の内容からは離れ、自分たちの経験や体験から価値項目について一人一人が考えることができるよう授業の進め方を工夫する。

特	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
---	-------------	---------------	----------------------

	望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。	・係活動にすすんで取り組める子とあまり取り組まない子との差が出てしまう。 ・学級会の回数が少ない。 ・話し合い活動の進め方、発言の方法におけるルール、マナーが身に付いていない。 ・学級での活動を決めるときに、話し合いの観点を考えずに意見を言う児童が多い。 ・児童主体と教師の主導の活動のバランスが難しい。	・係活動の時間を確保し、活動の目的を共有したりイベントを開いたりして、互いの活動に着目する場を設ける。 ・最初は自分たちで考えて行動に移せるように、まずは選択肢を提示する。 ・学級会のルールの徹底、子供たちで進められるような分かりやすい進め方を提示する。 ・国語科と関連させ、話し合いの仕方を統一することで、円滑に話し合いが進められるようにする。 ・年間を見通して、児童主体と教師主導の活動のバランスを考え、計画的に実施する。
--	---	--	---

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を養う。 (1)課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解する。 (2)実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する。 (3)探究的な学習に主体的・共同的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。	・自己のテーマをどのように決めるか（課題設定の力）が弱い。 ・探究する力が弱い。 ・分かりやすく情報を整理したり、選択したりする力に差がある。 ・振り返りを通して、成果と課題が分析できない。	・どの学年も課題の発見、情報収集、整理・分析、まとめ・表現のサイクルを意識して学習計画を立て、探究的な学習ができるようにする。 ・日頃から探究活動がしたくなるような環境整備を行う。 ・自分の興味に基づいた課題や方法を自己決定する場を作る。 ・ICTや図書資料の活用、ゲストティーチャーの活用など効果的な情報の収集や体験活動など児童の思考が深まるような工夫をする。 ・思考ツールや付箋など、情報の整理・分析の仕方を指導する。また、まとめ・表現の方法もいろいろと提示し、児童がよりよいものを選択できるようにする。 ・振り返りの場面を設定し、教師が適切な助言、指導をすることで、自らの学びを価値付けたり、新たな学びにつなげたりできるようにする。